

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしやかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議  
(第9期 第1年 第2回 第1日)  
議事録

1 日時 2012(平成24)年7月8日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 21人

呉 群、王 夕心、許 可欣、楊 奕、王 平、崔 想、朴 昌浩、中村 ジュデイス、  
シャルマ ガジェンダー、ケオバサアト ラツアミちゃん、ガン リョンイン、仲田  
シリワン、グエン ゴク バオ リン、法 邑 カレン ウィルフリダ、柳澤 アンナ、  
コロンツイ カロル、園田 泉 ベアトリス、生出 オリエッタ、エドモンド ダンカン、  
シャヒン セルカン、チャート デビト

(2) 事務局

横山 室長、佐藤 担当課長、西山 担当課長、石川 担当課長、松井 担当課長、  
小田切 担当係長、向井 担当係長、湯川 主任、西口 専門調査員

4 傍聴者 5人

5 会議次第(公開)

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 事務局説明
- (3) 議事
- (4) 事務連絡

6 議事等の経過

**【全体会】**

王平委員長「川崎市外国人市民代表者会議、2012年度第2回第1日を開催する。

傍聴者は傍聴者遵守事項を守っていただきたい。本日安委員、孔委員、シフケン委員  
から欠席の連絡があった。今日の日程と資料について事務局に説明をお願いする。」

(事務局向井係長が日程と配布資料について説明。)

王平委員長「前回の会議のまとめの報告を事務局をお願いする。」

(事務局西口専門調査員が資料1に基づき前回会議のまとめを報告。)

王平委員長「議事に入る。まず、先ほど配布した次第の(1)代表者の補充について、  
事務局に説明をお願いする。」

事務局向井係長「6月26日に代表者のウンチャンギリ委員から川崎市外に引っ越された  
ため辞任の申し出があった。代表者会議の運営要綱の第11条に代表者がやめた  
場合、「もう1人補充してください」と市長に申し出ることができる。その申し出を  
するかしないかを今日決めていただきたい。」

王平委員長「会議はこれからスタートという時期。ぜひ補充を申し出たいと考える。」

<採決>案 代表者の補充を申し出る 賛成21人→決定。

王平委員長「続いて、資料2について事務局に説明をお願いする。」

(事務局湯川主任が資料2に基づき部会のテーマを読み上げ。)

エドモンド委員「B部会のテーマが多すぎてバランスがとれないのではないか。」

王平委員長「テーマの振り分けは前回決まっている。」

エドモンド委員「では、テーマの振り分けを変えることはできないということか。」

王平委員長「まず、希望する部会で手を挙げてもらい、バランスがあまりにも悪い場合には再度検討する。A部会とB部会、入りたい部会の方に手を挙げてほしい。」

【A部会】 エドモンド、生出、王、グエン、ケオバサアト、園田、崔、仲田、  
中村、朴、法邑、楊、

【B部会】 安、呉、ガン、許、孔、コロンツイ、シャヒン、チャート、柳澤

事務局湯川主任「欠席の孔委員と安委員からはB部会を希望という連絡があった。」

王平委員長「シフケン委員とサルヴィオ委員からは希望を聞いていない。B部会がテーマの多い割に人数が少ない。」

朴委員「複数のテーマをひとつにまとめられそうなので、問題ない。」

呉委員「B部会はテーマが多い割に人数が少ない。どうしてこのような結果になるのか。」

チャート委員「一人で複数のテーマを出している場合もあり、数人が同じテーマを挙げたということで、人数とテーマ数は一致していない。」

王平委員長「正副委員長を加えると両部会とも一人増えることになる。特に意見がないので、これで部会のメンバーを決定した。」

朴委員「委員長・副委員長には、欠席した際は必ずその回の部会の様子を把握するようにしてほしい。」

王平委員長「では、部会審議に移る。」

## 【福祉教育部会】

王平委員長「まず部会長を選出する。」

(王平委員長が資料3に基づき、部会長の役割と選出方法について説明。)

王平委員長「では、部会長に立候補する人と推薦を募る。」

<立候補・推薦>

朴 (立候補)

園田 (推薦)

崔 (推薦)

エドモンド (推薦) → 辞退

王平委員長「では、候補者から一言述べてもらおう。」

朴委員「第8期から参加しているが、今期は子育てと地域福祉に力を入れたい。私は福祉施設で働いているが、昨年の地震の後、地域の福祉の大切さを実感している。全力を尽くしたい。」

園田委員「私は今期初めて代表者になった。私には3人の息子がおり、大学生2人と3人目がやっと高校に入ったところ。保育園から始まり高校進学までいろいろな体験や嫌な思いもした。小さい子どもを育てている方に少しでも支援ができればと思っている。」

青少年活動にも参加している。ほかの活動ともリンクしながらやっていきたい。」  
崔委員「私もいじめや子育ての問題に関心があり、代表者会議に応募した。選ばれたら  
部会長としての役割を果たしていきたい。また、部会長に選ばれなかった場合も、  
個人として意見を伝えられるようがんばりたい。」

王平委員長「候補者への投票を行う。」

<投票> 第1回

- ① 朴 (立候補) 5人
- ② 園田 (推薦) 4人
- ③ 崔 (推薦) 4人

王平委員長「園田委員と崔委員が同票になったがどうするか。」

法邑委員「同票の2名から一人選び、1位の朴委員と決選投票で選ぶのはどうか。」

王平委員長「その方法で進める。では、②と③の2人で投票を行う。」

<投票> 第2回

- ② 園田 7人 → 決定。
- ③ 崔 4人

王平委員長「では、園田委員と朴委員で投票を行う。」

<投票> 第3回

- ① 朴 6人
- ② 園田 7人 → 決定。

王平委員長「園田委員が部会長に決まった。ここからは部会長に進行していただく。」

園田部会長「全力を尽くして、皆さんの意見を聞き、まとめていきたい。これから、部会  
の名称について決めていきたい。」

(事務局西口専門調査員が資料3に基づき部会の名称について説明。)

園田部会長「部会の名前について意見はあるか。」

朴委員「過去の代表者会議では、福祉という名称が一度も使われていない。社会福祉教育  
部会という名前はどうか。」

ケオバサート委員「社会福祉には具体的には何が含まれるのか。」

朴委員「子育て、高齢者、障害者の福祉など。人間は誰でも平等という意味もある。」

エドモンド委員「長過ぎるので、福祉教育にした方がよい。」

園田部会長「この名前にした場合、福祉に関するテーマも具体的に決めていく必要がある。

外国人として、どのように福祉の支援ができるか、あるいは外国籍の高齢者の問題な  
ど、扱う必要があると思う。他に意見がないので、この案で決を採りたい。」

<採決> 案 部会の名称を福祉教育部会とする。(全員賛成→決定。)

園田部会長「福祉教育部会と決まった。次に審議方法について決めていきたい。」

(事務局西口専門調査員が資料3に基づき、第8期の審議方法について紹介。)

園田部会長「テーマをどのような順番で進めるべきか、意見はあるか。」

朴委員「第8期では一つのテーマでもかなり審議に時間がかかった。今出ているテーマの中  
で保護者支援は言葉の壁の問題なので、審議に時間がかからないと思う。」

ケオバサート委員「どのテーマも話し合っていないので、時間がかかるかどうかかわらな  
い。」

仲田委員「部会で話し合えるのは全部で何回か。」

事務局佐藤課長「提言のためにテーマを絞った話し合いも行うので、テーマを全て扱うと  
なると、2年間で8回あると考えると考えていただいたほうがよい。」

王夕心委員「この11のテーマは毎回全て扱うのか、数個ずつ分けて扱うのか。」

事務局佐藤課長「1回の会議で複数のテーマを扱い、11個全て話し合うようにするのか、  
11個を重要なものから順位をつけて、順位の低いものは時間切れで扱わないという  
形をとるのか、考えていただきたい。」

朴委員「部長がどうしたいのか聞きたい。部長次第で早く進むかどうか決まる。」

園田部長「皆さんの意見を聞いて決めたい。11のテーマから、自分にとって一番大事  
なテーマを一人ずつ言っていただき、5つくらいに絞りたい。」

生出委員「その前に、それぞれのテーマを簡単に説明してほしい。」

エドモンド委員「審議方法を決めてからどのテーマを深く審議したいか決めればよい。」

王平委員「第8期の例として資料の①と②があるのでどちらかを選んで、決めた後にテーマ  
について審議したほうがよい。」

法邑委員「テーマについて説明があれば、どれが自分にとって重要か考えられる。」

グエン委員「各自一番関心のあるテーマを3つまで挙げて、人数が多いところから扱うこ  
とにしてはどうか。」

ケオバサート委員「部長は11個の中から5つという提案をしていたが。」

園田部長「まず、方法を先に決める。①時間がかかるテーマとかからないテーマに分け  
る。②優先順位をつけて順番に審議する。①と②のどちらかから選ぶ。」

<採決>案1時間がかかるテーマと、かからないテーマに分ける。(賛成11人→決定。)

案2優先順位をつけて順番に審議する。(賛成2人)

園田部長「では、①が11人だったので、①の方法で決めたい。では、次に自分が出し  
たテーマについて簡単に説明してほしい。」

エドモンド委員「テーマのバランスが悪いということで、B部会からテーマを移す話があ  
ったと思うが、テーマの移動はあるのか。」

王平委員「人数バランスが悪い場合は見直す可能性もあったが、バランスはとれているので、  
テーマを動かすことはない。」

朴委員「今後部会が進むにつれて、必要ならテーマの移動はありうるのではないか。」

ケオバサート委員「B部会のテーマをA部会で話し合うことは可能か。」

王平委員「全体会の際に出た質問は、部会同士の人数バランスが悪い場合にはどうするの  
かという質問で、その場合は調整するという話をしたが、実際には人数バランスが  
取れていたもので調整は必要なかった。テーマの振り分けについては前回の会議で  
多数決で決まっているので、基本的には再度調整はしない。」

エドモンド委員「テーマの振り分けは前回の決定事項なので、動かすのは無理だということ  
はわかった。」

王平委員「B部会に関心の高いテーマがある場合には、全体会の部会報告の後の意見交換の  
時間に積極的に意見を出していただきたい。」

園田部長「では、皆さんが出したテーマについて一言述べていただきたい。」

仲田委員「私のテーマは、保護者支援。外国人の保護者は情報が足りなくて困っている。  
学校からの手紙も日本語で読めなくて困っている。簡単な言葉にして、保護者と学校  
とのコミュニケーションをよくしたい。」

ケオバサート委員「私が話したいテーマは、保護者支援といじめ問題。保護者支援は、特

に小さい子どもを持っている親が働きたくても、子どもがいて働けない場合にどうやって支援ができるか考えたい。いじめ問題は、いじめを減らすためにどうしたらよいかを話し合いたい。」

中村委員「いじめの問題に関心がある。子どもを育てる時に足りないことがあると、それがいじめにつながる。いじめは心の問題。いろいろな対応方法について考えたい。」

朴委員「高齢者福祉に関心がある。施設とか学校だけでは子育て支援や、いじめの対応は十分ではない。地域にいる周りのの方々のサポートがないとつらい。中国帰国者の子どもなどは言葉の問題でいじめにあったりすることもある。学校や役所ではなく、住んでいる地域をよくしていかないと問題が改善しないと思う。私は地域福祉と子育て、いじめも含めた保護者支援の2つを話し合いたい。」

生出委員「家庭教育について話したい。教育は学校の問題というイメージがあるが、学校だけではなく、生活全てが教育。まず家庭が重要。家庭は親の考え方と子ども自身の考え方が関わる所。子どもにとって親と家庭が一番のサポートになると思う。」

王夕心委員「外国人学生として、日本の教育の中で外国人がどういうふうに入られるか関心がある。いじめともつながっている問題だと思う。日本社会や日本人に外国人をどういうふう認識してもらおうのかという問題でもある。私は異文化交流といじめについて話したい。」

楊委員「私に関心のあるテーマは、地域の福祉と高齢者の福祉。外国の住民も住んでいる地域で日本人の住民と一緒に仲よく、いろいろな地域活動に参加できるようにする、孤立せず平等に日常生活が送れ、楽しいことができるために話し合いたい。」

高齢者の福祉については、外国人の高齢者は困ったときに色々な福祉の情報が手に入りにくい。周囲のサポートを受けたり、公的なサービスがスムーズに受けられるように話し合いたい。」

法邑委員「私はいじめについて話したい。いじめは広いテーマだが、いじめに関わる様々な問題を話し合いたい。」

グエン委員「私は異文化交流を中心に話し合いたい。子どもたちに、交流を通して楽しいことや新しい発見をしてもらい、楽しく生活すれば非行やいじめ防止にもなる。もう1つは家庭教育。学校に任せるだけではなくて、グループで親子一緒に家庭教育について学べるとよい。家庭教育は親への教育を中心にして、忙しいという親の考え方を变えて、家族を大事にして、家族の時間をもっと持つようにできるとよい。」

エドモンド委員「保育園が重要。親は働きたいのに保育園に子どもが入れない、空きがないということが大きな問題。あと、異文化交流を充実させて、いじめや差別を減らせるようにしたい。私はオーストラリアの田舎の白人の多い地域にずっと住んでいて、外国人も、アジア人にも会ったことがなかった。しかし、実際に会って交流すると友達になれることが分かった。そうした交流が大事だと思う。」

崔委員「私が話したいのは、乳幼児の子育てと保護者支援。私の家では乳幼児の子育ては妻が中心だが、外国人なので、隣が日本人でもなかなか交流できず、地域の児童施設や遊ぶ場所がわからない。中原区は子育てのための施設がかなりあるが、そうした情報を外国人のために広報してほしい。これは保護者支援にもなると思う。」

園田部会長「私は保護者支援を挙げたい。日本は保育園も学校も本当に手紙が多い。外国人には意味がわからない手紙もたくさんある。これは子どもが行くべきなのか、保護者も一緒に参加できるのか、時間はいつなのか、いろいろと細かいことがわから

なくて困った経験をしてきたので、支援をしたい。」

王平委員「私が提案したのは母語教育。特に、最近在日中国人で20年前に日本に来て、日本生まれの子がいる家族も増えている。そうした家庭で子どもが中国語が話せないことに危機感を持っており、中国語の教育へ関心が集まっている。朝鮮の場合は地域に朝鮮学校があるが、中国語の学校は横浜しかなく通うのも難しい。

もう一つは保育園について。私は今子どもが3人いるが、保育園に入るにも提出書類がいろいろあり大変だった。入るのにも制限や条件があるので、そうしたことについても皆さんで考えたい。」

園田部会長「いま取り上げられていないテーマに医療がある。」

朴委員「小児科や産婦人科が少なくなっていて、子どもの医療というのも大切。乳幼児の子育ての中で医療に取り組むというはどうか。」

園田部会長「これで8つのテーマに絞れた。次回どのような順番にするか決めたい。」

事務局西口専門調査員「次回の資料として必要なものがあれば確認したい。」

園田部会長「過去の代表者会議で同じテーマで議論された資料があれば出してほしい。

過去の議論を踏まえてそれにさらにプラスできる話し合いにしたい。」

朴委員「資料はできるだけわかりやすい日本語にしてほしい。」

事務局西口専門調査員「資料を作る際に気をつけたい。」

園田部会長「では、部会を閉会する。」

## 【社会生活部会】

シャルマ副委員長「少しの間、司会を担当させていただく。最初は、部会長の選出について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局湯川主任が資料3に基づき、部会長の役割と選出方法について説明。)

シャルマ副委員長「では、立候補・推薦の方がいれば挙手していただきたい。」

<立候補・推薦>

チャート・デビト (立候補)

シャルマ副委員長「他の方はいるか。(なし)では、チャート委員を部会長とすることに賛成する人は、手を挙げて。」(全員賛成→決定。)

シャルマ副委員長「それでは、チャート部会長に進行をお願いします。」

チャート部会長「確認したいが、今期は副部会長は、いないということか。」

事務局湯川主任「今期は、副部会長は置かないことになった。」

チャート部会長「では、部会の名称について提案していただきたい。」

柳澤委員「情報に関するテーマが多いので、『社会生活情報』はどうか。」

シャルマ副委員長「『情報・社会生活』、『社会情報』はどうか。」

呉委員「新しい特徴を出すという意味では、情報を前にした『情報・社会生活』。」

柳澤委員「『情報・社会生活』で良い。」

許委員「長いと呼びづらいので、4文字くらいがよい。」

チャート部会長「では、社会を省略して、『情報生活』はどうか。」

コロナツィ委員「情報を前に持つてくると、情報の問題がメインになるように感じる。まちづくり、入管制度、年金、住宅などのテーマもある。「社会」が一番多くのテーマに当てはまるので外さないほうがよい。」

柳澤委員「先に、重要なテーマを決めて、そのあと名前を決めてはどうか。」

チャート部会長「先にテーマと審議方法について、事務局から説明をお願いする。」

(事務局湯川主任が資料3に基づき、審議方法について説明)

チャート部会長「時間のかかるテーマと時間のかからないテーマを分けるメリットは、審議できるテーマの数が増えること。しかし、事前にテーマを分ける必要がある。」

呉委員「前回私は欠席した。まちづくり、窓口対応というのが何をイメージしているのかわからない。」

コロンツイ委員「私がかかなり具体的なテーマとして窓口対応を出した。まちづくりを提案した人も、具体的なことがあるかもしれない。」

柳澤委員「自分が重要だと思うテーマを2つか3つ選んでいけば、全体でテーマが5つくらいに絞れるかもしれない。」

ガン委員「審議や提言は、B部会テーマの中から出さないといけないのか。」

チャート部会長「審議しなかったことは、提言にはならないが、審議の中で、このテーマから外れても構わない。」

コロンツイ委員「時間がかからないのをまず決めてから考えればいい。」

チャート部会長「資料2に書いてあるテーマを、時間がかかるテーマと時間がかからないテーマに分けて、その後どうするかを決める。まずテーマを出した人から、具体的に何について話したかかを言ってもらい、時間がかかるかどうかを判断する。第8期では、1人でも時間がかかると思ったら、その人の審議が長引くことになるので、時間がかかるテーマにした。全員時間がかからないと思ったテーマは、時間がかからないテーマとする。」

まず、新しい入管制度を出した人はいるか。(なし)新しい制度の確認で、審議には時間がかからないと思う。時間がかかると思う人は手を挙げてほしい。」

コロンツイ委員「このテーマを話したい人がいなければ、テーマから外してはどうか。」

チャート部会長「このテーマについて話したい人がいるか。」

柳澤委員「ニューズレターで、新しい制度のお知らせをしたらよいのではないか。」

チャート部会長「すでに、お知らせしている。」

柳澤委員「では、解決している。」

チャート部会長「このテーマは情報伝達の一部に入れることにする。次に、親の呼び寄せについてコロンツイ委員から説明してほしい。」

コロンツイ委員「具体的だから時間はかからないが、重要な問題である。」

呉委員「今は親を呼んでも3カ月くらいしかいられない、何か事情があれば多少の延長はできるが、長く住むことができないという問題か。」

柳澤委員「ヨーロッパの人でビザが制限されている場合は延長もできない。だから、深刻。」

コロンツイ委員「こういう問題があるということを、国に、今だれかが言わないと。」

チャート部会長「時間がかからないが重要なテーマとする。」

呉委員「時間がかかる、かからない、重要、重要でないという4つに分けてはどうか。」

チャート部会長「では、そのようにする。では、まちづくり。」

シャルマ副委員長「これは大きなテーマで、時間がかかると思う。今、川崎は大体50人に1人が外国人で、いろいろな企業を市に入れる制度があると思う。この制度を少し変えるアイデアとして、例えば学校など何かに貢献している企業、川崎をもっと住みやすくしたいということに貢献している企業には、税金か情報か何かをサポートして

あげるというアイデア。」

チャート部会長「外資系の企業を川崎に呼び寄せ、川崎に住んでいる外国人市民と組んで、まちづくりを計画するという提案か。」

シャルマ副委員長「海外の制度の例で、都市に1億投資したら、15%の税の優遇措置が受けられ、企業が参入する。企業の収益の一部を教育に使うと、いい学校ができ、先生の募集も増え、子どもに教育が与えられる。それをぜひやりたい。」

柳澤アナ委員「この会議ではなく、市議会で扱うことかもしれない。」

コロンツイ委員「外国人の生活に限った話ではない。」

チャート部会長「テーマとしては、残しておく。外国人の地域生活への参加については私の提案。孤立感を持つ外国人市民が多いと聞くが、どのように、地域社会、自治会や町内会、祭り、に参加できるかについて話したい。」

許委員「多分時間はそんなにかからないと思う。」

チャート部会長「時間がかからないが重要なテーマとする。次は年金。」

コロンツイ委員「年金は提言したばかりなので、進みぐあいの確認だけでよい。」

チャート部会長「では、提言の取り組みの評価を確認するだけ。時間がかからなくて、重要ではないテーマとする。次は、住宅。今日欠席の孔さんが出した。大家さんが外国人に住宅を貸さないという問題だったが、川崎市はこの問題に対応する制度がある。前期もこの問題を話して、制度を知り、それは良いとなった。」

コロンツイ委員「年次報告書に書いてある。」

柳澤委員「テーマから消していいということか。」

チャート部会長「年金と同じく報告程度とする。次は、就職支援。」

シャヒン委員「日本に住み始めたばかりの人は、就職活動をよく知らないため、持っている技術を社会で生かすことができない。そうした外国人をサポートする方法について話したい。情報やウェブサイトとも関わるので、時間がかかると思う。」

チャート部会長「前期で学生の就職支援を審議した。でもこれは、前期のテーマと重ならないと思うので、重要な時間がかかるテーマ、とする。」

許委員「今回は、社会人の転職支援という意味か。」

シャヒン委員「学生に限らず、全ての外国人のため。私は、日本でネパール人の建築家と知り合った。その人は自分の国では建築の仕事をしていたが、日本でそうした仕事を見つける方法を知らなかった。そういう場合のサポートについての話。」

許委員「日本で就職と転職の意味は違う。」

シャヒン委員「転職の支援は含めていない。」

許委員「では就職だけということか。」

コロンツイ委員「就職というのは、どちらかというと民間の分野なので、川崎市の立場で何ができるかわからない。」

シャヒン委員「川崎市の企業に対する政策と関係すると思う。」

チャート部会長「次に相談窓口の説明を。」

コロンツイ委員「私は2つのテーマを出した。新しい入管制度になり、住民票を区役所で発行するとき、これまでできたようなことができなくなっている。新しい制度に対応した、改善した対応を市として行っていただきたい。」

チャート部会長「相談窓口の対応に含めたい。時間がかからないテーマである。」

ウー委員「A部会から同じような話を聞いた。どの窓口に行っても、日本語の対応しかない。」

多くの人が感じているので、時間はかからないが、重要度は高い。」

チャート部長「これは、できないと違法な状況にもなるので重要で、時間のかからないテーマとする。次は、代表者会議のホームページ。これを出した人はいるか。」

コロナツィ委員「これは多分ダンカンさん。」

柳澤委員「A部会で審議してほしいテーマとしてもいい。」

チャート部長「では、A部会に送るといってよいか。」

事務局湯川主任「では、正副委員長部会長会議で調整する。」

柳澤委員「ウェブサイトから外国人の意見を聞くというのも、ダンカンさんの提案だったのか。」

チャート部長「これは代表者会議のホームページのテーマの一部なので、特に審議したい人がいなければ、A部会に送ってもよいか。(意見なし)このテーマをA部会に送る。次、提言取り組みの評価。」

柳澤委員「提言取り組みの評価は、担当局の自己評価であり、会議は評価していない。Aでも何も取組まれていないテーマもあり、どうすればいいか話し合いたい。」

チャート部長「時間かかるテーマに入れたほうがいいだろう。具体的にどうやってできるかを考える必要がある。」

呉委員「重要だと思う。せつかく議論して提案したのに、その進捗がわからないままだと、時間が無駄になってしまう。」

チャート部長「市の評価はそんなに勝手ではないが、もう少し見直したい点はある。」

柳澤委員「だからA評価にもかかわらず毎回同じテーマが取り上げられる。」

チャート部長「では重要な時間がかかるテーマとする。次は情報の伝達。私が出したテーマで、簡単に言えば、住宅制度、年金制度、窓口が土曜日にあいている制度など情報が、外国人市民に届かない。特に、日本語が不自由な外国人に情報をどのように伝達できるか。」

シャヒン委員「Face Bookはどうか。」

チャート部長「Face Bookはすべての答えではないが、手段の1つではある。」

柳澤委員「災害情報とか、災害対策とか、それも情報について関わるテーマである。」

シャルマ副委員長「種類や内容も様々な情報をどのように届けるのかという問題。」

柳澤委員「だから重要で、時間かかるテーマで、情報の名前が全部合併すればよい。」

呉委員「A部会に移すとしていたホームページや外国人の意見を聞くというのもやはり、この部会で情報というテーマで扱う必要がある。」

シャルマ副委員長「ホームページとウェブサイト、情報伝達、全部同じかもしれない。」

チャート部長「日本語の不自由な方、コンピューターを持っていない人もいる。」

呉委員「ホームページとそれ以外の情報伝達を切り離して話をするのは無理がある。」

チャート部長「情報を1つのテーマにした場合、伝達する情報の種類や内容と伝達方法という2つのことについて、審議することになる。」

柳澤委員「情報手段と、情報内容で分けると時間がかかるのではないか。」

シャルマ副委員長「情報の内容は、A部会とB部会のテーマ1つ1つの審議内容と連携させれば、時間はかからない。方法については審議に時間がかかる。」

チャート部長「時間がかかるテーマとして、重要。災害情報と災害対策も、一緒に審議できる。情報伝達の問題が解決できれば、こちらも解決できる。」

柳澤委員「前回欠席の呉委員の、話したいテーマを聞いていない。」

呉委員「私が関心を持っているのが、親の呼び寄せの問題と情報。私は、日本が長いからそれほど不便を感じないが、徹底して皆さんと議論したい。」

チャート部会長「ガン委員は、余り話していないが意見はあるか。」

ガン委員「大体これまでの意見に、言いたいことが入っている。」

チャート部会長「では、順番は、時間がかからないテーマと、時間がかかるテーマに分けて、まず、親の呼び寄せ、地域活動への参加、窓口対応手続き、そして残りの4テーマは、優先順位をつけたほうがよい。」

事務局湯川主任「次回審議するテーマを選び、部会の名前を決めていただきたい。」

チャート部会長「次回は、時間がかからない重要なテーマを審議する。得に意見がなければ、書いてある順番で、親の呼び寄せと地域活動への参加でどうか。」

コロンツイ委員「時間が残れば窓口対応も。」

チャート部会長「では、その3つにする。親の呼び寄せは現在の制度の資料。地域参加は、町内会と自治会の存在とか、それがどういう状況か、どういうイベントなどがあるか。窓口対応は資料は必要か。」

シャルマ副委員長「どういう形で書類があるかとか。」

チャート部会長「区役所から現存の申込書などで、どういうふうに書いてあるか、どういう説明があるかなどの資料をお願いします。では名称を決める。」

柳澤委員「情報は、社会と生活についての情報ということになるので、生活と社会に比べ重要性は軽い。情報は大事だが、名称として入れなくてよいと思う。」

チャート部会長「では『社会生活部会』でよいか。」（挙手全員）

チャート部会長「『社会生活部会』に決定。部会を閉会する。」

## 【全体会】

王平委員長「全体会を始める。部会報告をお願いします。」

### [社会生活部会]

チャート部会長「部会の名前は社会生活部会。テーマを時間がかかるもの、時間がかからないもの、重要なもの、重要ではないものに分けた。重要でないものとして挙げられた新しい入管制度と災害情報・災害対策、は情報伝達の一部として扱うことにした。

時間がかからないテーマは、年金と住宅の問題。年金は第8期の提言になったので、今期調査審議のみ行う。住宅も第8期の審議で、制度はあるが、その情報が知られていないことがわかった。これも情報伝達の問題の一つとして審議する。

時間がかからない重要なテーマは、親の呼び寄せ。これは親が日本に長期的に住めるようになること。そして、地域活動への参加、町内会などのイベントなどに、どういうふうに参加できるようになるか。そして窓口対応と手続、これはわかりにくく、日本語も英語もできない人には本当に難しいので、改善するにはどうしたらよいかというテーマ。この3つは余り時間がかからないと判断した。

時間がかかるテーマとしては、まちづくりがある。外資系の企業を川崎市に呼び寄せ、外国人市民も関わって、市に貢献する制度をつくるというテーマ。これまでの代表者会議になかったテーマなので時間がかかる。そして、就職支援。学生だけでなく、社会人として日本に来て、どういうふうに着職するかという問題。そして、提言取り組みの評価、今まで提言の取り組み状況は市役所が自分で評価してきたが、

代表者がある程度評価できるシステムを取り入れられるかについて審議したい。そして、最後に情報伝達の問題。ここにホームページも含まれる。このテーマはどいうやって川崎市にある制度と豊富な情報を外国人に伝えられるかという問題。この4つは時間がかかるテーマになった。

この7つのテーマのうち時間がかからないテーマをまず審議する。次回、親の呼び寄せと窓口について審議し、できれば地域活動への参加まで審議する。」

王平委員長「社会生活部会に質問・意見はあるか。」

エドモンド委員「代表者会議のウェブサイトは今後変える予定はあるか。」

事務局西口専門調査員「今年の10月に市のホームページがリニューアルするが、代表者会議も7言語でホームページを立ち上げる。部会で出た意見を反映することも可能。」

朴委員「地域活動への参加の(2)町内会の仕組み、イベントの内容というところで、私もできることがあれば個人的に協力したい。」

王平委員長「代表者会議のホームページとウェブサイトから外国人意見を聞く、という2テーマはどこに含まれるのか。」

チャート部会長「その2つは情報伝達の一部として扱う。」

#### [福祉教育部会]

園田部会長「部会の名前は福祉教育部会。メンバー一人一人から自分の出したテーマを説明し、11のテーマを8つに絞った。次回どういう順番で話し合っていくか決める。いじめ問題など以前取り上げたテーマもあるので、過去に同じテーマで話し合った内容を資料にしてもらい、それを踏まえて話し合いを進める。」

王平委員長「福祉教育部会に意見、質問はあるか。」

朴委員「第8期、第7期から見ると、同じようなテーマも出ているが、再度振り返りながら粘り強く、話し合いを進めたい。」

呉委員「保護者支援の中には、情報が足りない、情報の意味がわからないという問題が出ているが、社会生活部会の情報伝達の審議と重なるので、連携をとればよい。」

園田部会長「この部会では、情報は学校関係、教育関係がメインになると思う。なので、両方の部会が連携して、互いに情報交換できると、審議にプラスになると思う。」

王平委員長「社会生活部会はテーマの審議が早くもスタートする。社会生活部会では時間がかかるテーマかからないテーマをどのように分けたのか。」

チャート部会長「時間がかかると思う人が一人でもいれば、その1人の審議が長引くので、時間がかかるテーマになる。メンバー全員が時間がかかれないと思ったテーマは、時間がかからないテーマとした。」

王平委員長「続いて、実行委員会等報告に入る。」

#### [各種実行委員会報告]

- 臨時会実行委員会；資料4に基づき、臨時会開催案について説明。
- ニューズレター編集委員会；資料5に基づき、No. 45の原稿案を報告、No. 45の2～3ページ代表者のプロフィールを各自確認するよう依頼。
- 市民祭り実行委員会；資料6に基づき参加日、参加内容について説明。アンケートの提出を依頼。

●多文化フェスタみぞのくち実行委員会；料理屋台のメニューの説明。アンケート提出を依頼。

[その他]

事務局から市内視察について、日程と出欠票の提出について説明。

王平委員長「これで、第2回第1日の会議を閉会する。」